



穴道湖と中海はなぜ

登録湿地になれたの？

ラムサール条約の登録湿地には、どんな湿地でもなれるにはいくつかの基準をみたしていないといけません。穴道湖と中海はともに「汽水湖」です。汽水とは、海水と真水の濃度がちがうため、それぞれにちがった特色があり

わけではありません。国際的に重要な湿地と認められるためと中海はそれらの基準をたくさんみしています。水がまざりあった塩分の少ない水のことで、穴道湖と中海です。



穴道湖・中海は世界に誇れるすばらしい湿地

穴道湖

中海

穴道湖の塩分濃度は海水の1/10

中海の塩分濃度は海水の1/2

3,000羽をこえる
マガンがくる!

1,000羽をこえる
コハクチョウがくる!

国際的な
基準5

「水鳥が2万羽以上利用

すること」という基準に対して

穴道湖・中海どちらも、毎年4万羽

をこえるガンやカモがくる!!

国際的な
基準6

「水鳥の1種の総個体数の1%が利用すること」という基準に対して

※総個体数は、その種の地域個体群の推定値から算出した値です。

穴道湖・中海どちらも、1万羽

ちかいスズガモがくる!

20,000羽をこえる
ホシハジロがくる!



20,000羽をこえる
キンクロハジロがくる!



国際的な
基準7

「固有な魚類の種の相当な割合を支えている」という基準に対して

シンジコハゼの代表的な生息地!



シンジコハゼ

国際的な
基準8

「魚類(貝類を含む)の成育場として重要な湿地。漁業資源の重要な回遊経路」という基準に対して

ヤマトシジミは日本有数の漁獲量を誇る!
穴道湖七珍は豊富な漁業資源の象徴!



ヤマトシジミ

2
ポイント
メモ

登録湿地になるための基準

- 基準1 特定の生物地理区内で代表的、希少、または固有の湿地タイプを含む湿地
- 基準2 絶滅のおそれのある種や群集を支えている湿地
- 基準3 特定の生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物を支えている湿地
- 基準4 動植物のライフサイクルの重要な段階を支えている湿地。または悪条件の期間中に動植物の避難場所となる湿地
- 基準5 定期的に2万羽以上の水鳥を支えている湿地
- 基準6 水鳥の1種または1亜種の個体群の個体数の1%以上を定期的に支えている湿地
- 基準7 固有な魚類の亜種、種、科、魚類の生活史の諸段階、種間相互作用、湿地の価値を代表するような個体群の相当な割合を支えており、それによって世界の生物多様性に貢献している湿地
- 基準8 魚類の食物源、産卵場、稚魚の生息場として重要な湿地。あるいは湿地内外の漁業資源の重要な回遊経路となっている湿地
- 基準9 鳥類以外の湿地に依存する動物の種または亜種の個体群の個体数の1%以上を定期的に支えている湿地

※ここで言う魚類には、魚の他に、エビ・カニ、貝類を含みます。